



1

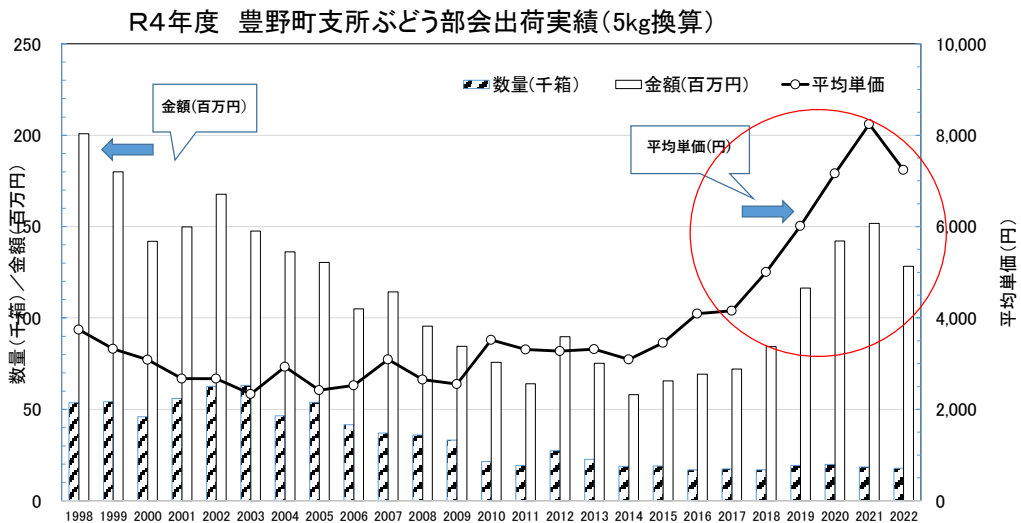
1.目的

- 近年、シャインマスカットの高単価に伴い、ぶどうの栽培面積が大幅拡大・また新規栽培者もどんどんと入ってきている。
- しかし、従来の主力品種であった「巨峰」とは違い、シャインマスカットは欧州系品種であるため、発生する病害も異なることが多い。特に豊野管内は「巨峰」産地～「シャイン」への切り替わり時期となっている。
- 特に黒とう病は若木から発生しやすく、潜伏期間も長い病気であるため、問題となっている。（若木への防除管理）
- そのため、対策を講じないと、産地振興に支障をきたすため。
ながのブロックでのブランド産地化へ

2

自分が思うブランド産地・・・

- 品質が良いのは当たり前（生産者全員の品質への気持ち）
- まとまったロットがあり、長い出荷期間（切らさない売場確保）
- 信頼がある（市場・仲卸・量販店・消費者・輸送業者）
- 生産者全員が産地に誇り・責任を持ち生産振興に積極的に取り組み、最後は生産者全員が農業所得向上のため、目指す方向は同じ。



2.黒とう病について



発病部位は葉、新梢、果実です。

初め黒褐色円形の小斑点を生じ、のちに拡大して中央部は灰白色、周辺部が鮮紅色～紫黒色のやや凹んだ病斑を形成します。

葉では主脈や葉脈上に病斑が連なって現れることが多く、また病斑が多数形成されると生育が不均衡になってひきつったようになります。

病斑の中心部には亀裂を生じて穴があきます。

新梢では病斑が多数連なることが多く、激発時には先端が黒く枯れることがあります。果実に発生すると肥大が不良となり、成熟期になっても軟かくなり、品質が低下します。

病原菌は結果母枝や巻きひげの病斑中で菌糸の形で越冬しています。4～5月の降雨時に病斑上に形成された分生子が雨滴によって分散し、各部位に達して侵入、感染します。潜伏期間は若い葉で3～7日、葉の生育とともに長くなり、硬化した葉や新梢では発病しなくなります。

5

3.試験薬剤について

殺菌剤 **カナメ** フロアブル



カナメフロアブルは、住友化学が開発した「インピルフルキサム」という新規殺菌成分を含有したフロアブル製剤です。FRACコードは7に分類されます。病原菌のエネルギー生産の過程を阻害する作用を持つ「コハク酸脱水酵素阻害剤（SDHI剤）」です。



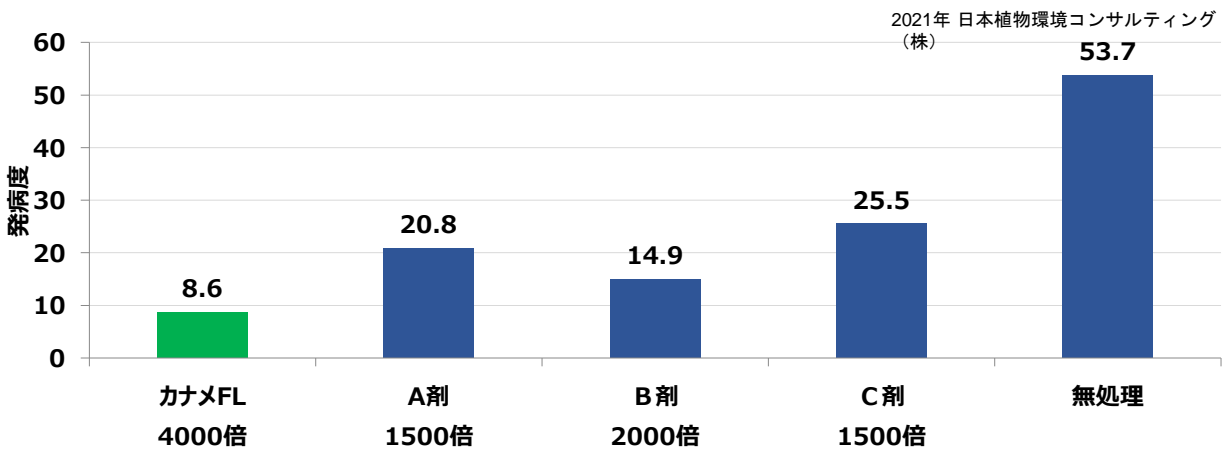
6

適用内容・使用法

ぶどう	黒とう病	4000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
ぶどう	さび病	4000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
ぶどう	うどんこ病	4000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
ぶどう	褐斑病	4000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
ぶどう	灰色かび病	4000～8000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内

7

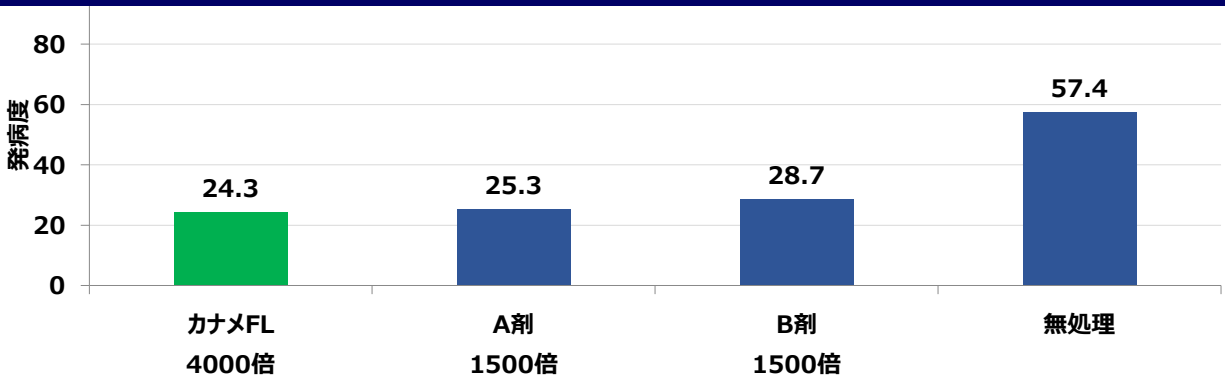
カナメフロアブル ぶどう/黒とう病に対する防除効果



試験場所：福島県福島市 供試品種：マスカット・ベリーA（10年生）
 区制・反復：1区1樹 2反復 発生条件：甚発生
 処理日：2021/5/25、6/5、15（ラビデン3S 5000倍加用）
 調査方法：7/5（最終散布20日後）に、1区1樹あたり100葉について発病程度別に調査した。

カナメフロアブル4000倍は、対照剤に優る高い防除効果を示しました。 8

カナメフロアブル ぶどう/灰色かび病に対する防除効果



試験場所：佐賀県小城市 供試品種：巨峰（16年生）、露地栽培
 区制・反復：1区9m²（100果房以上）、3反復 発生条件：多発生
 処理日：2021/5/19（開花前）、22（開花始期）、29（満開5日後）、6/6
 調査方法：6/11（最終散布5日後）に、1区あたり100果穂について発病程度別に調査し、発病果穂率、発病度を算出した。

カナメフロアブル4000倍はその他剤と同等以上の効果を示しました。

9

4. 試験内容

試験区は2園地を選択（豊野平場・山手）

試験剤「カナメフロアブル」

比較剤「ロブラール水和剤」※R4年度防除暦採用

対象品種「シャインマスカット」

対象病害「黒とう病」

散布時期：開花直前 6/上中旬

倍率・散布量：4000倍・400L～500L/10 a

10

比較剤について



- 各種作物の主要病害に卓効を示します。
- 野菜・果樹のアルタナリア属菌、ボトリチス属菌、スクレロチニア属菌、モニリア属菌やヘルミントスポリウム属菌、カーブラリア属菌などによる重要病害に卓効を示します。
- 適期防除で優れた効果があります。
- 本剤は持続効果が長く、早めの防除で的確な予防効果を発揮します。
- ベンズイミダゾール系殺菌剤、ポリオキシシン剤の耐性菌が問題になっている灰色かび病、斑点落葉病、黒斑病、灰星病などに高い効果を発揮します。
- FRACコードは「2」

11

適用内容・使用法

ぶどう	黒とう病	1000倍	散布	開花期～幼果期（但し、収穫60日前まで）	3回以内		200～700L/10a	3回以内
	白腐病	1000～1500倍	散布	開花期～幼果期（但し、収穫60日前まで）	3回以内		200～700L/10a	3回以内
	灰色かび病	1000～1500倍	散布	開花期～幼果期（但し、収穫60日前まで）	3回以内		200～700L/10a	3回以内

12

カナメフロアブル試験圃場概要

1. 試験場所：長野市豊野町南郷・A様園
2. 作物：ぶどう・品種：シャインマスカット
樹齢：8年生
3. 対象病害：黒とう病
4. 試験面積：18a
5. 倍率・散布量：4000倍・400L/10a
6. 散布日：6月10日（開花直前）
7. 調査日：7月5日

13

A様 カナメフロアブル試験散布圃場



* 昨年は黒とう病多発生。今年は休眠期防除のデランフロアブルは未散布。

* 園主様も汚れが少なく、若干混みあっている所は新梢に発病は見られたが昨年と比べるとかなり少ない印象。昨年は開花前に発病が認められ、房への感染、発病も見られ摘粒作業に苦慮した。

* 調査については達観調査とした。新梢に若干発病は認められたが、葉・房には黒とう病は見られなかった。

カナメフロアブル試験圃場概要

1. 試験場所：長野市豊野町大倉・B様園
2. 作物：ぶどう・品種：シャインマスカット
樹齢：7～8年生
3. 対象病害：黒とう病
4. 試験面積：13a
5. 倍率・散布量：4000倍・500L/10a
6. 散布日：6月5日（開花直前）
7. 調査日：7月5日

15

B様 カナメフロアブル試験散布圃場



* 昨年は黒とう病少発生。今年は休眠期防除の石灰硫黄合剤、デランフロアブルは未散布。

* 園主のB様も汚れが少なく問題はないとの事。

* 調査については達観調査とした。7～8年生のシャインマスカットには黒とう病の発生は見られなかったが、しかし隣接圃の若木については葉、新梢に発病が見られた。

16

5.薬価の比較について

- R5年度農薬注文書より

• カナメフロアブル 125ml 3,216円(概算価格)

• ロブラール水和剤 500g 4,898円(概算価格)



10 a 当り/500ℓ ・ カナメフロアブル 125ml(4000倍/100ℓ 25ml)

・ ロブラール水和剤 500g(1000倍/100ℓ 100g)

10 a 1,682円削減



17

6.考察・まとめ

- 黒とう病は、比較剤と比べて、試験剤が効果が高いことが分かった。また試験剤は若干の治療効果もあるため、その点でもメリットが高い。灰色かび病の発生もなく、効果は同等と思われる。
- これを踏まえて、R5年度防除暦にて採用した。また同じ系統のSDHI剤も今後検討していく。
- 同じ欧州系品種「クイーンルージュ」で試験調査とは別で同じ方法で散布している園地を調査したが、黒とう病・灰色かび病の発生はほとんど見られなかった。
- 国庫事業を活用しながら、ぶどうの産地化を図っていきたい。



18

最後に……………

ながのB果樹経営支援事業・果樹先導的事業の経過（ぶどう）

※改植には荒廃園再生含む

R3 改植：20,481㎡ 新植：2,939㎡

R4 改植：4,334㎡ 新植：15,045㎡

※現状、りんご高密植栽培→ぶどう栽培の改植・新植が増えてきている。

19



ご清聴ありがとうございました。



20